

## 令和3年度事業報告書

令和3年8月1日から令和4年7月31日まで

特定非営利活動法人日本スリランカ次世代育成サポート

### 1 事業の成果

令和3年度の3期目については、事業基盤の整備を重点に置きながら、行政及び民間の様々な特定非営利活動支援の情報収集を行いました。また多文化社会理解促進のための勉強会やワークショップを実施しました。当団体のホームページでは、ブログやFacebookでスリランカに関するコラムや活動を紹介しました。

また、おきなわ国際協力プラットフォームや地域活動の銘苺小学校区まちづくり協議会等などの会合に定期的に参加しています。それ以外に、県内で活動するNPOや任意団体、学校、一般企業、その他県内で事業をしているスリランカ人の方や技能実習生などと情報交換を行いました。

当団体の柱である国際教育支援事業の「きぼう国際学校」の状況は、コロナ禍により学校は対面とオンライン両方の授業を行っています。令和4年1月に「きぼう国際学校」開校一周年行事として、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教の4つの宗教の聖職者を招き、指導や説法、祈りによる集いを行いました。イスラム教僧侶が平和への祈りを込めた歌を披露し、1月14日はタミル人のタイポンガル（豊穡）祭りでは、学校でタミル人の保護者の協力を得てお祝いの行事を行いました。このような行事を通し、互いの宗教の違いや共通点がわかり、民族同士の友情関係が芽生えることを期待します。

また農業体験として「食と農に関心を持つ」目的で、子どもたちは校内の田んぼで、稲刈り事業に参加しました。地域の方々の協力で、伝統的農業のやり方を体験し、近代的機械による脱穀作業を行いながら、今年度は野菜畑を作る予定です。現在、生徒数は約50名、校長先生を含む教員8名です。事務局長と事務職員一人、他に警備を含めて職員3名で学校運営を行っています。

#### (1) 受取会費

- |        |                |
|--------|----------------|
| ① 正会員数 | 11名            |
| ② 賛助会員 |                |
| 法人及び団体 | 21名（20名／令和2年度） |
| 個人     | 62名（57名／令和2年度） |

パンフレットやイベントを介した賛助会員の募集活動を行ったことで、理事と社員の方たちのご尽力により上記の賛助会員数となりました。

#### (2) 受取寄付金

75,000円

沖縄スリランカ友好協会の活動から繋がりがあった方々や、法人の理念に賛同した方々から寄付金がありました。

#### (3) 受取助成金

- ①「2021年度一般財団法人りゅうぎん国際化振興財団助成金事業」より50万円が採択されました。
- ②那覇市市制100周年記念提案事業補助金より令和3年1月に76万円が採択されました。令和4年2月に実施所定でしたが、コロナの状況により全面中止になり、経費計上は96,000円になりました。

- ③公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団の助成金を活用し、スリランカ子ども絵画展を通じた異文化理解事業として3万円を採択されました。

体制については、理事長を中心に事務局スタッフ5名がボランティアとして業務を進めております。今年度は、10月と11月、また4月、7月に運営委員会を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、蔓延防止措置対策や度重なる緊急事態宣言の影響から、集まる場を持たず思うような活動は実施できませんでした。

## 2 事業の実施に関する事項

### I. 特定非営利活動に係る事業

#### (1) 国際教育支援事業

①令和3年10月末「JICA草の根技術協力事業」（独立行政法人国際協力機構）助成金申請を行うため申請書、その他資料を準備していましたが、必須条件であった現地スリランカでのNGO登録が間に合わず、申請することができませんでした。プロジェクトは『実践的能力を伸ばす教育モデルの構築を目指すプロジェクト』で、「きぼう国際学校」周辺の地域と連携し、幅広い教養と高潔な倫理観、社会での役割を果たす使命感を有する人々を育てるため、スリランカではほとんど実施されていない体験学習と感動体験を重んじる教育プログラムを提供します。若者のエンパワーメントを促し、地域開発に貢献できる次世代育成をサポートします。構築した教育モデルを地域の教員や学校と共有し、スリランカの教育水準を高めることに寄与していきたいです。

令和4年7月20日にNGO登録が完了したことから、10月の申請に向けて現在事前相談をJICA沖縄担当者で行っています。

②「きぼう国際学校」では、開校一周年行事の一環として、地域の幼稚園児や小学校の生徒を学校に招き、絵のコンクール開催し表彰式を行いました。またその絵画を一部県内に持参し、異文化交流事業として絵画展を行いました。

③令和4年7月、スリランカ社会情勢や経済状況が悪化するなかで、「きぼう国際学校」の運営費の一部の支援を行いました。

#### (2) 多文化社会理解促進事業

「2021年度一般財団法人りゅうぎん国際化振興財団の助成金事業」を活用し『これからの多文化共生を考える国際井戸端会議』を9月18日に開催しました。

国際井戸端会議は、日本社会は人口減少や少子高齢化が進む中、労働力人口の減少を補うため外国人を受け入れる制度を2年前に導入しました。またコロナ禍で外国人留学生の受け入れができなくなり、日本語学校も学生数の減少で苦境にあると報道されています。こうした様々な課題をふまえて、これからの多文化社会に必要な価値観や生き方について共に考えるためのイベントを開催しました。

当日は、JICA 沖縄の体育館（定員50名）の会場にて、来場者を入れる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、沖縄県内の緊急事態宣言の発令に伴い、来場者は中止しました。しかし、同時にオンラインで配信を予定していたことから、ZOOMを活用し県内外や海外からの参加を募ることが出来ました。外国から講師を招聘することが難しいことから、国内にいる外国人就労者や留学生、またパネリストとして国際交流団体や受入れ企業、日本語学校の運営している立場の人たちを対象にしました。オンライン参加者：43名（県内・県外・海外による参加含む）。

### (3) 異文化交流事業

①令和4年2月26日に、那覇市市制100周年記念提案事業助成金を活用し『心でつなぐ沖縄とスリランカ芸能交流事業』を開催予定でした。しかし令和4年1月に県内は蔓延防止措置が発令され、感染者数が増えるなか来沖予定であった舞踊芸能ダンスメンバー2人が感染者になるなど、実施するにはリスクが大きいと判断し中止しました。

イベントは中止しましたが、来沖予定であった舞踊芸能メンバーが制作したダンス映像に切替えて、理事長のメッセージ付きの動画とともにYouTube動画として当団体のホームページにアップしました。

ビデオメッセージは、2005年に那覇市が戦後60周年記念事業としてチャリティーコンサート「Sound Rainbow～アジアの人々とともに～」を開催した際、この収益金で、スマトラ沖地震の被災地であるスリランカのマータラ県とゴール県に学校図書館が建設され、教育環境が大きく改善されました。その事に対する感謝を、那覇市市制100周年を祝う機会に伝える目的で発信しました。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費支出額(千円)
国際教育支援事業	当団体紹介とスリランカの「K1Cきぼう学校」告知や宣伝活動	通年	県内外	5	全国メディア関係者/一般個人	335
	スリランカ子ども絵画展	7月～8月	県内	5	関係者とスリランカ	85
	「きぼう国際学校」への運営費支援	7月	-	5	スリランカ	300
多文化社会理解促進事業	これからの多文化共生を考える国際井戸端会議	9月	県内外	5	県内外オンライン同時開催	345
異文化交流事業	心でつなぐ沖縄とスリランカ芸能交流事業	2月	県内	5	県内外映像発信	135
その他目的を達成するために必要な事業	実施しなかった	-	-	-	-	-

### (2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額(千円)
物品販売事業	実施しなかった	-	-	-	-